

へ取移し、箸を直して可喰、箸を納るには、小折敷のふちへ押入べし、又肴取替る時は、左にて箸を持てかゆるなり、箸をすみかけて可置、

〔中島宗次記〕一すひ物はいくたびすわり候共、まづ箸を取あげみを喰置ざまに汁をすうべし、努努力一番にしるをすう事なけれ、但物によりて一番にすう事あり、口傳有、

〔鳥板記〕一すひ物くひやうの事、銚子出たるを見て、拵持上で人ごとに先玄るをすひて後にくふ也、是もわろく、先玄るをすはぬ先にそとみをくひてのち玄るをすふべし、是もわかきものなどは、あまりすふ物などをつよくみなくふ事もわろし、見計てよき程にくふべし、

〔膳方明記四〕吸物の事、箸を取寄、右の手にて吸物を取あげ、左へ移し右の手をも添て吸、さて箸をとり返しみを喰べし、下に置候時は箸持たる方へ取移し候て置なり、幾度も如斯、さて箸を置膝を立るものなり、

吸物獻々有時は、始には汁を吸、汲みを給也、二獻めにはみを給、さて汁を吸候て能也、三獻めは初獻と同前、此心得に何獻御入候とも參候て能なり、

〔宗五大草紙上〕公方様諸家へ御成の事

一先年金仙寺貞宗常の御朝臣亭御成の時、御肴參たる次第大方注候、初獻ぞうに二獻まんぢう、又二獻而、三獻點心の三獻すひ物、
參候事も候、

〔老人雜話上〕高麗陣の時、太閤日根野備中を高麗へ使に遣す、備中甚貧く支度成がたし、三好新右衛門を介媒にして、銀を黒田如水に借る、如水銀百枚をかす備中歸朝して、新右衛門と同道し、如水へ往て禮を云、銀百枚外に拾枚を持參す、利息の心なり、如水對顏し、暫くありて人を呼て、さきに人の吳たる鯛を三枚にをろし、其骨を吸物にして酒を出せよと云ふ、兩人心に不足す、酒訖て、三好銀を取來て禮を云、如水云、初より借す心無し、合力の心なりとて、再三強ても取らず、二人甚だ感じ